

ワクチン接種が進むフランスの現況

天理教リヨン布教所長
藤原 理人 Masato Fujiwara

閑話休題。ライシテの歴史から少し離れフランスの現状について書きたい。

昨今、ネットの情報で確認する限り、日本でもワクチン接種の話題が大きくクローズアップされている。フランスもワクチン接種が進み、全土で2,500万人以上が接種を受けている。6,700万人の人口であるから、4割近くの人が少なくとも1回目の接種を終えたことになる。フランスでは夏が近づくと必ずバカンスの話になるが、今の時期に1回目を受けると2回目接種がバカンス時期に重なるという心配をする人もいる。フランス人が接種会場に次々と足を運ぶのも夏の休暇を思う存分楽しみたいからだという人もいる。たしかに接種希望者は多い。筆者は中等教育に従事しているため、5月24日から優先的に予約できる権利があり、アプリやネットで日々チェックしていたが、刻々と予約状況が変化するらしく、なかなか簡単には予約できない状態だ。

アストラゼネカ社のワクチンへの不信感などもあって、当初は消極的だったフランス人の考えも変わってきている。2月には49%が接種を希望していたが、5月には65%に上昇。希望しない人は30%から20%に減った（とはいえ陰謀論者やAntivaxと呼ばれる反対派はフランスにもいる）。

筆者の友人や職場の同僚も接種した人は多い。多くの町で体育館などを利用した接種センターが開設されている。拙宅近くのセンターで接種した友人の話によると、受付から接種後の経過観察まで実に手際よく対応していて、待ち時間はほとんどなかったという。

アストラゼネカとジョンソン&ジョンソンの接種は55歳以上に限られるものの、5月31日からは18歳以上にファイザーとモデルナの接種が可能となり、6月15日からは保護者の承諾があれば12歳以上18歳未満でもファイザー製ワクチンが接種できる予定だ。これでさらにワクチン接種が加速するだろう。

6月2日 TousAntiCovid というアプリで確認したところ、一時は優に100%を超えていたフランスの重症者病床占有率は56%まで下がり、実行再生産数は0.88、10万人当たりの感染者数は91人と、どれもロックダウン期と比べると大きく減少している。5月19日に3度目のロックダウンが終わり、筆者の住むリヨンでも街中のテラスはカフェを楽しむ人であふれている。

6月9日からは衛生パス (Pass sanitaire) と呼ばれるシステムが実施されて、すでに1,700万回以上ダウンロードされている上記アプリが使用される。アプリにはワクチン接種済み、コロナ感染後の回復証明、PCRテストや抗体検査の結果が記録される。1,000人以上のコンサート、スポーツや文化的行事、見本市などイベント会場の入り口に表示されるQRコードを読み取ることで感染者の追跡を可能にする。アプリを通じてのプライバシー侵害を懸念する人は紙の証明書も使用できるが、デジタル化によって興行主側の作業は楽になるだろう。また、欧州レベルでは7月1日に同様のシステムが導入されて、実施になればヨーロッパ域内の移動がしやすくなる。メディアでは欧州各国のPCR検査の費用を報じるなど、夏のバカンス期は人の

流れが大きくなることが予想される（フランスはヨーロッパでも珍しく無料でPCR検査ができる）。まだ次の爆発的感染に対して予断を許さないとはいえ、このように出口が見えてくると感じられるのは明るい材料だ。

以下、個人的に思うところを書きたい。

新型コロナ発生以降、科学者会議の言葉をもとに政策を決定しているという点を強調してきたフランス政府には、少しうがった見方をすれば責任を科学に押し付ける思惑を感じましたが、それだけ科学の力は国民を説得できるということだ。しかしながら専門家であれ有識者であれ、だれの言葉を信じていいのか分からなくなっている一面もあるだろう。そしてワクチン推奨政策をフランス国民が受け入れつつあるという現実、副反応など科学的にまだ解明できていないことも、確率の問題として許容していることを示している。COVID-19はこうした不確実性の問題（言い換えれば一種の賭け）を、かつてなかったほど大多数の人に対して強いている。

起源も分からないウイルスの対応について不確実な要素を抱える中、信仰者たちは信仰実践によっていったいどのような力を得られるのだろうか。祈れば救われる超自然的な力なのか、信じられる人や歩むべき道を正しく見抜ける直観力なのか、自ら選択した治療法によって自身の身に悲劇が起こっても泰然自若を貫ける達観力なのか、精神の鍛錬によって向上させる身体的な耐性や免疫力なのか。宗教の教えの特徴や個人個人の心的感受性によって答えは変わってくるだろう。

事故があってものちに責任の所在を問えるかが分からないコロナワクチン接種の意思表示のように、私たちはこれまで以上に個人の決断が重要な時代に入っているように思う。そうした不確実性のある問題における個人個人の決断のプロセスには、上記のような信仰実践が再び存在感を示す余地があると思う。ただ、宗教が現代人に説得力を持って語りかけるには、宗教と科学の共存という大きなテーマではなくとも、信仰者自身に信仰実践を科学的に見つめる目が不可欠のように思う。フランスはライシテの歴史において科学と宗教を対立するもののように扱ってきたが、現代の宗教は信仰の中に科学を活かさなければ人々の心に届かないだろう。

[参照インターネットサイト]

(リンクは2021年6月2日時点)

フランスアンフォ HP 「COVID-19 ワクチンに信頼をおきつつあるフランス人」

https://www.francetvinfo.fr/sante/maladie/coronavirus/vaccin/vaccin-contre-le-covid-19-les-francais-de-plus-en-plus-convaincus_4632875.html

フランス政府 HP 衛生パスについてのQA集

<https://www.gouvernement.fr/pass-sanitaire-toutes-les-reponses-a-vos-questions>

欧州議会 HP EU デジタル COVID-19 証明書

https://ec.europa.eu/info/live-work-travel-eu/coronavirus-response/safe-covid-19-vaccines-europeans/eu-digital-covid-certificate_fr